

# ジウム in ふくしま

# 復興から新しい東北の創造へ

渡辺 震災から一年。今後の本格的な産業復興をいかに進めていくのか。東北のモノづくり企業は何をするべきか。地域を活性化していくには何が足りないのか。そうした観点から議論していただければと思います。また東北の新しい産業像も探つていければと考えます。まずはこの一年の皆さんとの取り組みはいかがだったでしょうか。

野村 震災の当日在まだ日銀本店の業務局にあります。した。日銀の事業継続計画（BCP）を推進する仕事をしており、どうやって東

高橋 震災当日は入試の

金の供給というのが何よりもの使命でもあり、週明け以降の準備に奔走しました。私自身は4月7日に福島支店の次長に配属され、5月23日に福島支店長に就きました。内向きには支店の職員が安心して仕事ができるよう努めました。

外向きには、この非常時だからこそ福島県の経済状況をしっかりと調査し、対外的に説明してきたところです。金融政策を進める観点からも、被災地の現状をしっかりと報告してきました。



野村 充氏

## 被災地の現状把握



高橋 隆行氏

## 支援組織立ち上げ

は特殊な要因を抱えたよう  
に考えて います。  
**千田** 岩手県からまいり  
ました。今回の震災では全  
国から「支援、励ましをい  
ただきまして大変ありがとうございました」とい  
うござります。この場をお  
借りしまして心から御礼申  
し上げます。当社は奥州市  
に本社、沿岸部の大槌町に  
は従業員50人ほどの生産拠  
点があります。半導体製造  
装置の部品はじめ、「F  
1」向けなどの特殊パーツ  
の加工も手がけています。  
震災では大槌工場50人のうち  
26人の社員が津波で家を  
流されるなどの被害を受け  
ました。

発生から一年を経て、東北のモノづくり産業の現状や今後の取り組みについて産学官金の関係者で議論を交わした。震災後に東北各地で中小企業の復興支援に走り回る中小企業基盤整備機構東北支部の西村哲雄震災復興支援アドバイザーが「復興事業計画の策定について」と題して基調講演。パネル討論では、震災後の東北のモノづくり産業のあり方などを展望。東北の復興に向けて熱いメッセージを発信した。

## 復興事業計画の策定について



中小企業基盤整備機構東北支部  
震災復興支援アドバイザー

—3M+CL 確保をチェック

宮城産業人クラブ、山形産業人クラブ、日刊工業新聞社

地域のモノづくりを応援する—機械工具・環境機器の総合商社  
**有限会社福島研磨材商会**  
代表取締役 渡辺三雄  
本社 福島市三河南町10-12 TEL 024-534-5121  
支店 郡山市安積2丁目182 TEL 024-945-4831  
支店 相馬市油(油)1丁目12-7 TEL 0244-26-1722